



伝承の子守歌 時代背景考察

上野氏講師に
帯三条で授業

帯広三条高校（合浦英則校長）で、帯広市で伝承されている子守歌「赤い山 青い山 白い山」についての特別授業が行われた。学校法人帯広葵学園の理事長・上野敏郎氏（75）が特別講師を務め、同歌が歌われるようになった経緯を、時

上野氏の授業を受ける生徒たち

代背景を絡めて1年生36人に説明した。

同校は2021年度から、地元企業や人とつながり、自らの将来や地域の課題解決を考える道教委の「北海道CLASSプロジェクト（北海道CLASSプロジェクト）（地学協働活動推進実証事業）」の研究指定校に選出されている。

同校で音楽を担当する豊田端吾教諭（53）が、同学園で「とがち童謡まつり」を主催し、同歌に造詣が深い上野氏に講師を依頼。授業は10月31日に行われた。生徒は、上野氏の講話を

聞いた後、2〜4人の班に分かれ、同歌が作曲されたとされる明治時代後半の人々の生活を考察。歌詞に込められた思いについて議論した。平林蒼空さん（16）は「歌についての知識が増えると、愛着も湧いてくる」と話した。

今後は生徒がそれぞれ同歌を編曲し、アレンジしたものを12月に授業で発表する予定。豊田教諭は「生徒が歌うことで、その家族も『赤い山 青い山 白い山』に関心を持ってくれれば」と期待している。（山田夏航）